



歌舞伎を熱演する子どもたち

大人顔負けの演技で会場魅了 せきのみや子ども歌舞伎第3回公演

せきのみや子ども歌舞伎クラブによる「第3回せきのみや子ども歌舞伎公演」が11月19日と20日、関宮公民館ノビアホールと八鹿文化会館ホールで行われました。

公演は、梅谷馨市長の口上で開演。引き続き、公演に向けて5月から厳しい稽古を重ねてきた同クラブメンバー17人が、息の合った葛畑三番叟、迫力ある立ち回り、日本舞踊「三つ面子守」、歌舞伎「妹背山婦女庭訓（いもせやま

おんなていきん）三笠山御殿の場」の各演目を熱演。それぞれが稽古の成果を発揮して、大人顔負けの演技力で会場をわかしました。

自然環境を守り「紅葉の郷」をめざす

和田区で「メグスリの木」の郷づくり

一昨年4月、大塚町和田区内の田淵山で「メグスリの木」が10数本群生しているのが確認されました。メグスリの木はカエデ科の落葉高木で、室町時代にこの木から目薬が作られたことから、こう呼ばれるようになりました。また、目の病気をはじめ肝臓にも効くとされ、漢方薬としても知られています。

メグスリの木がまとまって自生しているのは珍しいことから、同区では区総会において区木に指定。苗木を各戸に配布し、それぞれが庭先などに植えられています。

山内紀代美区長は「紅葉の美しいメグスリの木を植栽することで、自然環境を守ることを目的に取り組みを始めました。今後も続けていきたいと思えます」と話されました。



▶庭先に植えられた苗木を見つめる山内区長



日ごろの活動成果を披露する出演者

地域に広がる芸術文化の輪

各地域で文化祭を開催

毎年、各地域で開催されている伝統ある文化祭が、10月下旬から11月上旬にかけて各公民館を中心に開催されました。

芸能発表では、カラオケや大正琴、日本舞踊、吹奏楽など、各地域で日ごろの活動成果を発表。また、会場には書道やちぎり絵、書道、生け花など、数々の力作が展示されました。

会場には多くの方が作品の鑑賞に訪れ、地域に広がる芸術文化を肌で感じるとともに、出展者が作品を通して交流を深めるなど、芸術文化の輪が広がる文化祭となりました。